

警察庁資料

非行少年を生まない社会づくりの推進

家庭や地域社会の
教育機能の低下

コミュニケーション
能力の不足

自分の居場所を見出
せず孤立感・疎外感

少年の規範意識の低下

～「少年の健全育成」を通じた将来にわたる治安基盤づくり～
少年は次代を担う存在であり、かつ、刑法犯検挙人員の人口比が成人と比べ高水準にある

少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動 (待受け型から出前型へ)

- 少年や家庭のSOSを待つのではなく、非行を繰り返す少年に対して積極的に手を差し伸べ支援
- 地域住民や関係機関の協力を得て、対象少年と社会とのつながりを構築
 - ・ 警察職員等による定期的な連絡や訪問活動
 - ・ 学生ボランティア等の協力を得た少年の社会奉仕活動、体験活動等の場・機会の拡大
 - ・ **関係機関と連携した就学・就労支援**

少年の規範意識の醸成と少年を取り巻く 絆の強化

- 少年を見守る社会気運の醸成
 - ・ 企業等の現役世代等も対象に含めて、幅広く情報発信
 - ・ 少年警察・防犯ボランティアを中心とした「少年への声掛け運動」の促進
- 低年齢少年を始めとする少年の規範意識向上施策の展開
 - ・ 低年齢少年やその保護者を対象とした非行防止教室等の開催
 - ・ 万引き等ゲートウエイ犯罪に対する感銘力ある取締り等、官民連携した抑止対策

【就学支援の例】

- 過去に窃盗で検挙された不良交友と深夜はいかいを繰り返す女子中学生は、保育園でのボランティア活動を通じて保育士に憧れを抱いて復学し、更に大学生ボランティアによる学習支援によって志望校に合格し進学した。

【大学生ボランティア】 約5,000名（平成29年3月1日現在）

